



東広会ニュース

9月号

2005年(平成17年)

Vol.15

発行所 東京都渋谷区恵比寿南
1-5-5JR恵比寿ビル10F

東日本鉄道東京広告会

電話 03(5447)7855

E-MAIL info@tokokai.jp

平成17年第2回理事会開催される

「全国鉄道広告振興協会(仮称)」設立を全面支援

東広会は9月8日(木)14時から17年度第2回理事会を開催した。また、4月22日(金)開催された「東広会第2回総会」で説明され賛同を得た全国組織「全国鉄道広告振興協会(仮称)」がいよいよ設立に向けて具体化し、設立準備室が発足した。

理事会では、全国組織への東広会会員各社への参加呼びかけと全国組織設立への全面支援が決議された。

専務理事の小林末光氏から全国鉄道広告振興協会への入会案内を会員各社に送付した旨の説明があった。

入会案内には「全国鉄道広告振興協会の設立につきましては、去る8月26日(金)に開催されました設立準備委員会におきまして一定の方向が示さ



第2回理事会(9月8日)

れ、皆様に可及的速やかにご入会をお願いすることになりました。同協会の設立につきましては、本年4月22日(金)の当会通常総会で、設立趣意書、定款、機構図、事業計画等をご説明し、ご賛同をいただいておりますが、現在、概ねその内容で設立の準備が進んでおります。今後は10月6日(木)の設立総会を経て、速やかに申請手続きを行う予定となっております。



全国鉄道広告振興協会設立準備委員会(8月26日)

この全国組織設立によって、「価値あるメディアへの脱皮」「業界の最新動向情報の共有化」「業界のステータスのアップ」など多くのメリットが鉄道広告業界にもたらされることになり、鉄道広告業界の発展を通じて、皆様方の営業活動にも貢献できるものと確信しております。」との主旨の小島会長からのメッセージが記載されている。

設立準備委員会には、小島会長、瀧副会長、永井副会長、栗原副会長、小牧副会長を含め関東、関西、名古屋、北海道、四国、九州各地区から26名が発起人として名前を連ねており、全国各地から鉄道広告に携わる多くの参加社が見込まれている。

また、席上では、各メディア委員会の活動報告がなされ、媒体価値の向上と売上促進への取組みを強化するため、昨年に増した活動を継続することが確認された。総務委員会が2回にわたって開催した「新入社員研修」には49社106名の参加があった旨の報告もなされた。

この他、第1回理事会議事録及び、第3回ゴルフ大会開催等が報告され了承された。資料として今年度会議・行事予定が配付された。次回理事会は12月8日(木)開催予定となっている。

「つくばエクスプレス」8月24日(水)開業

各種交通メディアの販売も好調！

秋葉原と茨城県のつくばを結ぶ新線「つくばエクスプレス」(TX)が8月24日(水)開業した。初日の乗車人数は総数19万4294人。駅別乗車人数で見るとトップは秋葉原3万8435人、2位は北千住2万4655人、3位は、つくば2万1462人と続き、流山おおたかの森、守谷、南流山、浅草の各駅で初日乗車人数が1万人を超えた。

交通広告媒体の販売管理はJ企。開業時の各媒体の販売も好調ではほぼ満杯となった。サインボードは販売面数334面に対し申込数は約23

00、沿線企業や団体を含め期待の高さがうかがえる。

車内広告は、山手線・常磐線などとのセット販売を実施。単独で販売されるのは「まど上」のみ。こちらも家電関係、不動産関係などを中心に満杯の状態。

J企では、今後もクライアントや広告会社からのニーズも参考にしながら、新規媒体の開発に積極的に取り組むとのこと。沿線では、住宅地の開発や企業・教育機関の進出もあり、利用者の拡大にも期待がかかる。



秋葉原ホームに展開されたアドピラー他



浅草駅コンコースサインボード

「JR東日本ポスターグランプリ2005」受賞作品 東京駅アートロードと山手線ADトレインに展示

交通メディア最大の広告賞「JR東日本ポスターグランプリ2005」受賞作品展が8月1日(月)から31日(水)までの1ヶ月間、東京駅丸の内地下通路アートロードにて開催された。アートロードの煉瓦壁面は、最近、広告スペースとして注目されており、今回の作品展も多くの人々の関心を集めた。

また、昨年に引き続き山手線ADトレイン「ポスターグランプリ2005号」が8月16日(火)から31日(水)まで運行され、動く広告ギャラリーとして一般の乗客の方々に広く受賞作品が披露された。

話題となった中づくり特殊広告 アサヒ飲料「ワンダ モーニングショット」

本物そっくりの缶コーヒーを挟み込んだ中づくり特殊広告が登場した。展開したのはアサヒ飲料「ワンダ モーニングショット」。写真のように6本の缶が挟み込まれている。掲出されたのは8月31日(水)～9月1日(木)(山手線群)。もちろん安全性確保のため、本物の缶ではないが乗客の視線を集めていた。



アサヒ飲料
「ワンダ モーニングショット」中づくり



アートロードに展示された受賞作品

デジタルモニター「WVIT」好評運行中

京浜東北線の2編成に、7月より「WVIT(Wireless Visual Info Terminal)」を使った日本テレコム社のADトレインがデジタル広告の実証実験のため運行されている。

「WVIT」は17インチのデジタルモニター4台が1ユニットになっており、中ぶりの位置に、各車両3ユニット、合計120台(1編成)が設置されている。

内容的には、1ユニットのデジタルモニター4台には同時に別々の4コンテンツを放映することができる。さらに、1日を3つの時間帯に分け、



京浜東北線ADトレインで実証実験中のWVIT

「WVIT」販売商品

デジタルモニター「WVIT」を検証するために、各モニターのCM枠単位に、モニター別、時間帯別に販売いたします。

商品名	提出期間	概要	広告料金(税抜)
「WVIT」スポット	半月	1編成の「WVIT」のモニター(1、2、3、4)のいずれかの60秒枠で放映	100,000円
「WVIT」モニター・ジャック	半月	1編成の「WVIT」のモニター(1、2、3、4)のいずれかを一社で放映	400,000円
「WVIT」ジャック(朝帯)	半月	1編成の「WVIT」の朝帯(早朝～10時)を一社で放映	500,000円
「WVIT」ジャック(昼帯)	半月	1編成の「WVIT」の昼帯(10時～16時)を一社で放映	400,000円
「WVIT」ジャック(夜帯)	半月	1編成の「WVIT」の夜帯(16時～0時)を一社で放映	500,000円
「WVIT」ジャック	半月	1編成の「WVIT」の上記3つの時間帯を一社で放映	1,400,000円
「WVIT」ADトレイン	半月	1編成の「WVIT」+車内ポスターを一社で放映及び掲出	2,680,000円

各時間帯にモニター1台に20コンテンツまで放映可能なため、最大で20コンテンツ×4台×3時間帯＝240コンテンツまで放映が可能となっている。

JRメディアに「時間」という概念が取り入れられたことにより、これまで交通メディアを積極的に利用していなかったクライアントの開拓・拡大が可能になると思われる。

トレインチャンネル全面リニューアル

山手線トレインチャンネルが10月から全面的にリニューアルされる。

広告枠の位置や秒数の変更、新商品「コンテンツ・コンボ情報番組提供型」の登場、販売単位が1ヶ月単位から週単位(月曜～日曜)を基本とし

自治体も注目！車体広告でアピール

人気の車体広告に地方自治体が目、実際にキャンペーンの一環として活用する事例が増えている。現在は、岡山県と香川県の車体広告が山手線を走っている。岡山県は7月3日(日)～9月25日(日)、香川県は8月29日(月)～11月20日(日)各1編成。

岡山県の場合、国体開催のアピールと観光客誘致を狙い、岡山県倉敷



岡山県 (7月3日(日)～9月25日(日))

た枠切りに変更、フレキシブルな放映が可能な「スーパースペース」が登場、素材入れ納期的大幅短縮など、これまで以上に魅力的な商品となる。詳しくは交通媒体システムのメディアガイドンスかJ企車両メディア部までお問合せください。

市出身の星野仙一氏をモデルに使ったビジュアルで展開している。大都市圏で岡山のイメージ向上を図る「岡山・夢・元氣」アピール事業の一環。

香川県は、香川かがやき大使の女優、長沢まさみさんの主演映画「タッチ」の公開にあわせて「キラキラ輝け！香川県にタッチ。」のキャッチコピーとともに展開している。



香川県 (8月29日(月)～11月20日(日))



広告意匠について説明する
審査部大塚部長(右)、井上副部长(左)

新入社員研修追加開催される

東広会総務委員会主催の「新入社員研修」が8月25日(木)J企会議室で開催された。7月に行われた研修への申込が大幅に定員を超えたため急遽実施されたもの。7月が58名、今回が48名の参加があり、東広会の研修への期待の高さがうかがえる。

安全確保のため万全の対策を

台風シーズンを迎え、サインボードやフラッグ等の落下事故を未然に防ぐため、細心の注意を払うことが求められている。過去にも、取り付け不備などが原因で剥離や落下事故が発生しており、J企交媒局

設備・安全対策部では、強風等に備えて万全の対策をとるよう呼びかけている。

また、10月26日(水)には線路近接作業等を行う22社を対象にした「登録22社事故防止会議」が開催される予定である。

感想文から

○デザイン審査など、代理店側としては知ることのできない事例や電

鉄利用者の声などを聞くことができ、改めて交通広告の公共性の高さを認識した。(24歳女)

○「すごく古くてすごく新しい媒体」という言葉に、この業界の魅力を感じた。(22歳女)

○普段は聞くことができないことを聞くことができ非常に勉強になった。交通広告の効果の高さが理解できた。今後はクライアントおよび鉄道利用者双方の視点に立って取組む必要性を感じた。(33歳男)

○交通広告の動向が把握できたので大変参考になった。特に意匠審査に関しては、事例をあげて説明していただいたので分かりやすく実務に生かせる。(28歳女)

○普段は日常業務に追われてなかなか時間をとって勉強することができ

ないので良い機会だった。(24歳女)

○営業という立場で、戦略的・効果的に交通広告をプロモートするための情報を得ることが出来て大変感謝している。(23歳女)

○これまで、知っていること知らないことが混在していたが、今回受講したことで、全体が見えるようになった。これからは安心して営業に取組めると思う。一方で、交通広告の奥の深さを感じることもできた。(23歳女他複数)

○クライアントと電車利用者の双方を念頭において取組む必要があることを実感できた。(23歳女)

○基本的な事柄から実践的な内容まで幅広く学ぶことができ、非常に充実した時間を過ごすことができた。(31歳男)

○これまでよくわからなかった点が、講義の中で、具体的な事例を多数示されたので理解できた。(32歳男)

○WVITやゲートウェイ広告をはじめ、比較的新しい媒体の詳細も説明していただき大変参考になった。(27歳男)

○交通広告の影響などを実感し、これからもたくさん魅力的な広告を掲出していければ、と思った。また、それぞれの媒体がこういった目的に適しているかが理解できた。(25歳女)

東広会事務局移転のお知らせ

JR恵比寿ビル10Fから左記へ移転しました。駅前ビルです。

・新住所(9/5より)

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南1-1-1

ヒューマックス恵比寿ビル8F

※恵比寿駅下車徒歩1分

電話 03-5773-6788

FAX 03-3712-2399

JR電話 058-4463

案内地図

